

## 平成 30 年度 第 1 回 SPring-8 ユーザー協同体評議員会 議事録

日時：2018 年 4 月 24 日（火）15 時 00 分～16 時 45 分

場所：SPring-8 中央管理棟 上坪記念講堂 兵庫県佐用郡佐用町光都 1-1-1

出席者：水木純一郎（会長）、片山芳則、城戸伸明、小原真司、中川敦史（監事）、西原克浩、原田慈久、藤原明比古（幹事）、東正樹、雨宮健太、坂田修身（副会長）、田中義人（幹事）、辻淳一、野中敬正、山口浩司、本間穂高（副会長）

以下、TV 会議出席者：有馬孝尚（利用委員長）、久米卓志、雨宮慶幸（監事）、尾嶋正治、横谷尚睦  
幹事・前幹事/ 大和田謙二、吾郷日出夫、若林裕助、西堀麻衣子、高尾正敏（企画委員長）、加藤健一、木村昭夫（TV 会議）

オブザーバー/ 山川晃、桜井吉晴、大端通、木下豊彦、反町耕記、伊藤博幸、登野健介  
事務局/坂川琢磨

### 議題：

#### 1 新旧会長挨拶

水木会長から開会が告げられた後、中川前会長、水木会長の順で挨拶があった。

#### 2 平成 30 年度評議員紹介

評議員（資料 1）の自己紹介が会場出席者、TV 会議出席者の順であった。

#### 3 平成 29 年度第 3 回議事録案の確認

平成 29 年度第 3 回議事録案（資料 2）を確認した。

#### 4 司会進行選出

水木会長の提案により藤原庶務幹事が司会に選出された。司会選出後、藤原庶務幹事からオブザーバーの紹介があり、理研、JASRI、さらに懇談事項に SACLA-UC との連携があることから SACLA-UC からもオブザーバー参加していることを確認した。

### 報告事項

#### 5 平成 29 年度活動報告

##### 5.1 行事概要

田中行事幹事から実修行事（夏の学校、SPring-8 シンポジウム、秋の学校）の概要報告があった（資料 3）。報告に対し質問はなかった。配布資料に記載の秋の学校の開催期日の誤りを訂正した。

##### 5.2 研究会活動状況

有馬利用委員長から研究会活動状況の報告が行われた（資料 4）。研究会ごとで活動状況に差があること、旅費規定の変更等について報告があった。報告に対し質問はなかった。

##### 5.3 動向調査報告

有馬利用委員長から研究会と分野融合研究が作成した動向調査報告書の紹介があった（資料 5）。また将来の SPring-8 を考える上で利用して欲しいという旨の発言があった。報告に対し質問はなかった。

##### 5.4 分野融合型研究活動

藤原庶務幹事から分野融合型研究活動について紹介があった（資料 6）。分野融合型研究活動として 4 分野を計画し、これまでに立ち上がった 2 分野（ナノデバイス科学（資料 7）、実用（資料 8））が SPring-8 に新分野創成課題として課題申請し実施されていることが報告された。報告に対し質問はなかった。

#### 5.5 ビームライン高性能化作業部会

藤原庶務幹事からビームライン高性能化作業部会についてこれまでの経緯の報告があった（資料 9）。報告に対し質問はなかった。

#### 5.6 理研・JASRI・SPRUC 3 者会合

水木会長から理研・JASRI・SPRUC 3 者会合の立ち上げ経緯、意図、定期的開催する旨等について報告があった。報告に対し質問はなかった。

### 6 その他

藤原庶務幹事が、事前に準備した項目以外に会場からの報告事項のないことを確認した。

### 審議事項

#### 7 平成 30・31 年度活動方針

水木会長から表明された平成 30・31 年度の活動方針（資料 10）が承認された。活動方針は SPRUC のホームページに掲載される旨、藤原庶務幹事から発言があった。

#### 8 平成 30・31 年度副会長、幹事、監事他

水木会長から提案のあった平成 30・31 年度執行部案（資料 11）が承認された。資料 11 に記載の中川前会長の名前に誤記があり修正した。執行部案の審議に続き、報告事項として委員会と代表機関会議の構成員について水木会長から紹介があった。

#### 9 第 4 期研究会

有馬利用委員長から示された研究会活性化の方策を含めた第 4 期研究会の発足案（継続 29 件、新規 1 件、廃止 1 件）（資料 12）が承認された。この際、二つの研究会（機能磁性材料分光研究会、光・磁性新素材産学連携研究会）の表記が他と異なる理由について質問があった。有馬利用委員長から指摘のあった二つの研究会は募集締め切り時に申請がなかったものの評議員会に間に合うタイミングで提出があり、資料に追加したためとの回答があった。

#### 10 行事活動

田中行事幹事から行事实施案（夏の学校（資料 13）、SPRUC2018 Young Scientist Award を含む SPring-8 シンポジウム（資料 14, 15）、秋の学校）が示され、承認された。

#### 11 会計

会計幹事から平成 29 年度決算案、平成 30 年度予算案が示され承認された。

##### 11.1 平成 29 年度決算

加藤前会計幹事から平成 29 年度決算案（資料 16）が示され、承認された。この際、藤原庶務幹事から旅費支出の減少は、外部からの有識者の招聘にかかる旅費を充実させるため内部の方に対する旅費支出を抑制したことに起因するとの補足があった。この補足に対し原田評議員から、旅費支出の減少が研究会活動の低下につながっていないかどうか、実際に外部からの識者の招聘が進んだかどうかについて確認を行っているか質問があった。これに対し有馬利用委員長から、支出額の減少の理由として、活動費を新分野融合グループに重点配分することを計画したが、当初の四グループを立ち上げる計画に対し二つのグループしか立ち上がっていないこと、また、新分野融合グループへの周知不足が挙げられた。今後も新分野融合領域の支援を通して活性化を図る考えも示された。

##### 11.2 平成 30 年度予算

西堀会計幹事から平成 30 年度予算案（資料 17）が示され、承認された。この際 JASRI からの活動支援金が 100 万円増額になること、また、この 100 万円の増加分は期中で配分を検討する予備

費とし計上したことが説明された。またこれとは別に増額した 100 万円の使途について JASRI から指定されたのかと質問があった。これに対し JASRI の木下利用推進部長から、この会議の後、SPRUC 会長と JASRI の理事長で懇談の予定があり、そこで上記支援金の増額を明記した覚書を締結する予定であり、増額分について用途指定はないとの説明があった。合わせて JASRI の交付金事業であるユーザー支援の立場から、SPRUC の活動として JASRI との共同主催となる活動を一層アクティブに進めていただきたいとの要請があった。

## 12 その他

その他審議事項として、雨宮慶幸委員から秋の学校のスケジュールを早期に決める必要があるのではないかと意見が寄せられた。これに対し木下利用推進部長より、評議員会で SPRUC 側の担当幹事が決まるまで活動がしにくいこともあったが、準備のための相談が始まっている旨返答があった。また、藤原庶務幹事から継続性を考慮し、昨年担当された西堀英治幹事をお願いしているが、大和田幹事にも引継いでいきたいとの説明があった。

## 懇談事項

### 13 理研・JASRI・SPRUC 3 者会合

今回より評議員会の次第に加えた懇談事項について藤原庶務幹事より説明の後、水木会長から、会長、庶務幹事、雨宮元会長、中川前会長、シンポジウム担当の行事幹事が参加し、理研・JASRI・SPRUC 3 者会合を今後も継続することが表明された。活発な議論をするため、意見等あれば、会長・庶務幹事に知らせて欲しい旨、藤原庶務幹事から発言があった。

### 14 分野融合型研究活動・研究会顧問

藤原庶務幹事から、分野融合型研究活動の活性化を図るため、評議員・幹事からの意見募集や新分野の選定に関する検討をしていきたいとの提案があった。また、これまで研究会活動に対して意見を述べる「研究会顧問」について、SPRUC 全体に関する意見を述べる「顧問」とし、会長に対する諮問機関的な位置付けとする案に関し、次回評議員会で議論し総会に計るようにしたいとの提案があった。意見は会長・庶務幹事に知らせて欲しいとのことであった。

### 15 SACLA-UC との連携

SACLA-UC との連携強化の一環として、組織の統合も視野に入れた一体感のある運営体制の構築に向けた検討を進めたいという意見が藤原庶務幹事から示された。これに対し、雨宮慶幸委員から現在示されている組織図では SPRUC が SACLA-UC を吸収合併するよう見える点に関する危惧が示された。また、連携強化が進み一体としての運用が始まった時にどのような名称を用いるかについて両会長間で協議する必要があるとの意見も合わせて示された。水木会長から、まずそれぞれの利用者団体が共同でイベントを実施するようなどころから始めることが良いと考えるとの意見が述べられた。中川委員から SACLA-UC 側にも現場で実務を担う担当を立てていただき、ワーキンググループのようなものが必要ではないかとの意見が述べられた。

### 16 会議資料電子化

藤原庶務幹事から次回評議員会から会議資料電子化と印刷体廃止の提案があり異論はなかった。この際、中川前会長から電源確保に配慮をお願いしたいとの意見が述べられた。これに対しては前向きに検討することとなった。

### 17 その他

藤原庶務幹事から、継続審議となっていた会長選出方法の改正に関する提案があった。具体的には評議員から会長が互選される選出方法を改め、会長は評議員会で決定するが評議員であることは会長候

補の条件としない方向でまとめたいとの提案があった。これに対し異論は述べられなかった。

#### 今後の予定

第2回評議員会、代表機関会議、総会（2018年8月25-26日）：第3回評議員会、特別総会（2019年1月9-11日）について確認した。

#### 配布資料

- 資料1. 平成30年度 評議員名簿
- 資料2. 平成29年度第3回評議員会 議事録（案）
- 資料3. 平成29年度行事概要
- 資料4. 平成29年度研究会活動状況
- 資料5. 2017年度動向調査報告書（暫定版）
- 資料6. 分野融合型研究活動概要
- 資料7. 平成29年度 SPRUC 分野融合型研究（ナノデバイス）活動報告
- 資料8. 平成29年度 SPRUC 分野融合型研究（実用）活動報告
- 資料9. ビームライン高性能化作業部会報告書
- 資料10. 平成30・31年度活動方針
- 資料11. 平成30・31年度 SPRUC 体制
- 資料12. SPRUC 第4期研究会一覧・改廃履歴
- 資料13. SPring-8 夏の学校フライヤー
- 資料14. SPring-8 シンポジウム2018 開催計画他
- 資料15. SPRUC 2018 Young Scientist Award 募集要領
- 資料16. 平成29年度決算案
- 資料17. 平成30年度予算案
- 資料18. SACLA-UC との連携

以上